市内小学校での空間放射線量測定結果

測定値 $\mu\text{Sv}/\text{h}$ 単位

測定器 Mr.Gamma A2700 型(クリアパレス株式会社製)

	今回 2021年12月13日(月) 晴れ 測定高さ：地上より1m (*は地上1cm)	前回 2011年10月12日(水) ~14日(金) 晴れ 測定高さ：地上より50cm (*は地上1cm)	備考
大山小学校	校庭中央 0.02 体育館横側溝 0.03* 体育館近くの側溝 0.01*	0.04 0.03 なし	
比々多小学校	校庭中央 0.02 校庭近くの側溝 0.03* 第2校庭中央 0.02	0.03 0.05* なし	
成瀬小学校	校庭東側 0.02 校舎近くの側溝 0.03* 体育館裏の雨樋の下 0.06*	0.02 0.09* 0.05*	
伊勢原小学校	校庭中央 0.02 体育館裏の雨樋の下 0.06* 体育館裏の側溝 0.04*	0.03 0.07* 0.05	
市役所 横	0.05	なし	

10年前の前回と今回の測定値を比較すると、測定高さが異なっているが、すべての値が国の目標値 $0.19\mu\text{Sv}/\text{h}$ や基準値 $0.23\mu\text{Sv}/\text{h}$ に対して1桁少ない値であった。

今後1年毎位に継続してモニターしていきたい。

(目標値と基準値の考え方)

国際放射線防護委員会 (ICRP) では、一般大衆の線量限度を $1\text{mSv}/\text{年}$ としている。1日のうち屋外滞在時間を8時間、屋内滞在時間を16時間とし、屋内における放射線の低減係数を0.4倍とすると、時間換算で限度値は $0.19\mu\text{Sv}/\text{h}$ となる。

測定器で測定される放射線には、大地からの放射線 ($0.04\mu\text{Sv}/\text{h}$) が含まれているので、測定器による測定値としては、 $0.23\mu\text{Sv}/\text{h}$ が基準値となる。

なお、ここでいう線量限度は、安全と危険の境界線ではなく、あくまで管理上の基準値として設けられているものである。